

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000423		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム むつみ荘		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6		
自己評価作成日	平成23年11月17日	評価結果市町村受理日	平成24年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

むつみ荘は、熊本県の南部に位置し、海がありとても風光明媚なところです。ホームの周りには小学校、高校がありとても静かな街中にあります。御利用者様には心豊かに過ごせる場所だと思います。天気の良い日には毎日散歩に出ます。春には、桜並木の歩道を通り春爛漫を満喫することができます。また、近所の方とも顔見知りとなり、グループホームをご理解のうえ、ご協力いただいています。ホームでは洗濯もの畳み、掃除など職員と一緒に手伝っていただいています。毎日入浴をし、一日の疲れを癒していただき、気分転換を図っています。むつみ荘では、人間としての尊厳を尊重し、個性、主体性を尊重してご利用者様に楽しく生活していただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者に優しく寄り添う職員と、訪れる家族の表情から“仲睦まじい日常のむつみ荘”を感じ取る。既存の建物を利用したホームは決して広さや採光・UDが十分なものではないが、重度化しても、介護度が高くなっても入居者全員が一階居室から日中を過ごす二階に移動し、家庭浴槽での入浴や車イスを移乗しての食事、毎日の外出支援等職員のチームワークにより実践されている。又、毎日行う入居者との散歩は、近隣の方とも顔見知りの関係となったり、定期的に開催される運営推進会も心強いメンバーによって構成されている事は、地域密着型事業所としての活動を展開させている。今後も母体医療機関の支援を受けながら思いを一つにした職員のケアにより、入居者や訪れる家族にとっても居心地の良いホームが継続される事に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	ホームは地域密着型事業所としての役割を十分理解し“地域に向こう・顔見知りになろう・馴染みの関係を作ろう”の志のもと、職員間で行動計画を話し合い、入居者主体で取り組んでいる。又、理念は職員や来訪者も目につくところに掲示しケアの振り返りや周知徹底に繋げている。	地域に根差したホームの取り組みは職員の努力によって、地域協力体制が構築していく様子が運営推進会の記録からも窺える。新年度に新しい気持ちで推進会議の中でホーム理念について話をする事で、更にホームの思いが伝わる事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり近隣に住む人たちと触れ合うようにしている他、防災訓練など参加して頂き協力を頂いている。	天候の良い日は午前・午後と近隣の散歩に出かけ、地域の方々と日常的に会話や挨拶を交わす関係である。祭り(諏訪祭り・七夕)や地域行事の情報を得、積極的に参加している。又、地元高校の福祉科実習生の受け入れや花植え活動など人材育成や地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する中で、利用者様への接し方、対応を見ていただき認知症に対する理解を深めるようにしている。また、人材育成の貢献として研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから地域の様子を伺ったりすると昔の様子や現況を話して下さる。質問もたまにある。和気藹々の雰囲気である。	地域の中で過ごしていく中で心強いメンバー構成となっており定期的に開催され、ホームの近況報告の後は、それぞれの対場での意見やアドバイスがホーム運営に活かされている。消防署長より防災訓練実施後の反省内容や消防法の改正など説明が行われ、スプリンクラーの設置の必要性もあるが、まずは避難方法が重要であるとの指導は、ホーム職員の防災意識の向上や地域の協力体制への共有の機会となった。会議の中で外部評価についての取り組みも行われ、家族へも送付されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えているが連絡は蜜にとってはいない。	行政担当者とは日頃より、法人事務長を中心に待機者や介護保険事業計画、更新申請をはじめ、電話やメール以外にも機会あるごとに直接役所を訪れ、ホームの現状を報告しアドバイスを受けたり意見交換を行うなど良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施錠は防犯の為にしている。	外部研修や法人内研修などにより身体拘束について学んでいる。二階建ての建物のホームは日中殆ど二階で過ごし、一階を開ける為、防犯上施錠を行っているが、入居者の外出支援は毎日行われ施錠による弊害等は感じられない。又、月例会の中でもスピーチロックを含む拘束について話し合い入居者を尊重したケアを確認している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、ミーティング等で虐待防止に関する理解浸透や順守に向けて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性はないが、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、殆ど活用されていない。利用料金支払い時、要望、意見をたずねているが特に意見、要望は聞かれない。	入居者からは入浴や食事支援時など日頃の関わりの中で、コミュニケーションにより意向を確認し、家族からは来訪時やふるさと訪問時、遠方の家族からは手紙や電話により入居者の報告を行い意見や要望を確認している。毎月発行される“むつみだより”は入居者・家族、支える職員の思いが詰まったホーム便りとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と共に毎月会議を行い意見や提案について配慮いただいている。	代表者との法人運営会議やホーム単独の会議の中で職員の意見や要望を聞く機会としている。又、管理者は日頃より職員の働きやすい環境やチームワーク作りに努めている。この一年玄関先の整備や、重度化により日中もリビングで休息する方の為のベッド購入、男性用トイレを洋式トイレへ変更する等多くの改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援は十分に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に一応、伺っているが理解できない場合、再度家族に要望をうかがっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯状況についてゆっくり話を聞き安心されるように十分な説明を行うよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望を前提としての相談には応じているが、ほかのサービス利用の支援はおこなってはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活ができるようにはたらきかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有し本人を支えていくために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援につとめている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように故郷訪問をおこなっている。	入居者にとって一番大切な家族との関係が途切れないよう、家族も参加しての敬老会や誕生会を行っている。又、懐かしい郷土料理（半夏至まんじゅう・柏だご）作りや馴染みの食堂を利用し弁当注文したり、生け花や茶碗拭き、床掃除など個々に応じこれまでの特技や趣味の活動も支援している。ホーム便りにもふるさと訪問で仏壇に手を合わせられる方の様子や調査当日も家族の来訪を明るく迎えゆっくり過ごしてもらう様配慮する職員の姿が確認された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さん居間で過ごされ孤立することはない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全く断ち切る事はないが、相談があった場合には相談にのる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情からくみ取り関わる中で、把握している。意思疎通困難な方は家族から情報をえている。	入居者と日々の関わりを大切に思いや意向を確認したり、行動や表情、しぐさから察知している。意思表示の困難な方はジェスチャーや来訪時の家族と一緒に思いを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズム理解をすると共に行動や小さな動作から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き職員全員でカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを行い、本人・家族・職員の気付きや思いを反映し入居者中心のプランを作成している。半年ごとや状況に応じた見直しを行い、現状に即したプランとし家族への説明を行っている。又、サービス担当者会議には医師・看護師・法人事務長も参加しそれぞれの立場での意見が出されプランに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報交換し地区の行事や町の行事に参加している。(花植え、七夕祭り、文化祭など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっている。不可能な時は職員が代行している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援する事を伝えているが緊急時を考慮し、母体医療機関へ移行する方がほとんどである。隣接する母体医師は毎日ホームを訪れ入居者と言葉を交わし、状態を確認しながらホームでの生活の継続を支援している。本年度三名の入居者が一度に母体への入院を余儀なくされたが不安や戸惑いの解消に同じ部屋を提供し、職員が毎日顔をみせる事で精神的安定を図り早期退院に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞い家族とも回復状況等情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。現在は該当者なし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。看取りについては家族にちよくちよく伺う様になっている。	重度化した場合の指針を作成し、本人、家族に説明している。必要な時点で更に話し合い意志を確認しながら看取りまでを支援している。医療行為を希望されれば母体医師と連携し入院という形をとっている。ベットでの生活が長くなっても日中はリビングで馴染みの職員や入居者の声を聞いて長椅子で過ごし、食事も座位にて皆の中で摂る様支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にはすべての職員が参加、体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々の協力を経て避難訓練を行い、消火器の使い方などの訓練もおこなっている。	年二回の総合訓練に消防署や管理会社が立ち合っている。近隣住民にチラシを配布して協力要請を行い、避難誘導や見守りに参加が得られている。総評としてお互いに声を発しながら入居者の避難具合や存在を確認し対応する必要性を指摘されている。法人全体で「災害対策委員会」を立ち上げ職員の防災への意識向上や危機管理能力の徹底を目指し、現在三名の職員が防災管理者を取得し今後も全職員の取得へ向け努力している。備蓄については法人内施設で一括保管している。	法人全体で防災への取り組みを推進し、地域との協力体制について全体の会議や運営推進会議で協議している点は高く評価出来る。今後、集中豪雨で得た地域の避難所の危険性について更に地域と検討し母体医療機関の緊急時の使用等について周知を図る事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	職員は入居者の身だしなみに心がけ、毎日の入浴により清潔保守に努めている。又、方言を交えながらも相手を尊重した優しい言葉使いで対応している。リビングでの排泄用品の交換時は必ずつい立てをし、他の入居者の目に触れない様配慮している。経験豊かな職員が入居者一人一人の尊厳に焦点を当てたケアを実践しており家族も気兼ねなく訪問している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ意思表示困難な方には、表情、言動からくみとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない、一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣に合わせた支援、行事、外出時はおしゃれを楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで職員全員が同じものを一緒に食べ、楽しい雰囲気食べられるように配慮している。手伝いは身体機能の低下、意欲の低下であまりできなくなっている。	家族的な料理を中心に実施した献立を記録として残している。冷蔵庫の品を確認し一日分の食材を購入し汁物を必ず入れるようにしている。個々に合わせてご飯の二度炊きや、ミキサー食を提供し職員と入居者が同じテーブルで同じ食事を摂っている。高齢化と共に直接手伝われる事は少なくなって来ているが、音や匂いを感じながら料理の進み具合を楽しみに待たれている。誕生会でのワンプレートランチや家族会での大皿料理等、職員のアイデアが活かされた食の取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量、水分量もチェック把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止につとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者には定時トイレ誘導、自尊心に配慮し身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助など行っている。	日中は声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援し、体力的に難しい入居者へも排泄用品のこまめな交換により衛生面に配慮した対応をしている。夜間帯も声かけによりトイレでの排泄を見守り、体交時に用品の交換をする等安眠を妨げない様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には十分気をつけ、なるべく繊維質の多い食材を取り入れ、毎日の散歩を行い、身体を動かすことを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ち習慣に合わせた入浴支援ではないが、毎日入浴はおこなっている。	決して広い浴室ではないが、職員が工夫しながら毎日支援している。中には拒否される方もおられるが、時間をみて再度誘ったり、話術により入ってもらうよう気配りしながら対応している。日々の入浴は入居者への清掃保持と同時に入眠支援にも繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。また服薬時はきちんと服用できているか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い皆さん全員とは行かないが、心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている。また、外食や弁当をもってドライブに出かけていたが、現在は困難になっている。	天気の良い日はホーム周辺の散歩が日常化しており、入居者がそれぞれに身支度をされ職員と出かけている。季節の花見学(さくら、あじさい、バラ等)も入居者の楽しみであり、高齢化と共に長時間の外出は厳しくなりつつあるが地域の情報をリサーチし支援している。娘さんの所へ泊まりで出かけられたり家族の協力でふる里訪問が実現している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取り次ぎを行って、毎年賀状や暑中見舞いをだす支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。居間には畳にソファを置き、快く過ごせるようにしている。また、花や飾りなどで季節感を出している。	季節感に配慮した掲示物や飾りと共に、明るい職員の笑顔や語りかけが入居者の元気を引き出している。一日の殆どの時間を過ごす二階は入居者が寛げる空間としてベッドやソファの設置や音量にも配慮しながら音楽を流している。排泄支援後の換気や日々の掃除を徹底し、気持ち良く過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置思い思い安全に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがあり、居室が狭いため家族からの持ち込みはあまりない。	入居者は日中を二階のリビングや畳の間でそれぞれの時間を過ごしており、居室は就寝時間の利用が殆どである。既存の建物を改修した部屋は決して広さや明るさは十分ではないが、片付けや掃除が丁寧に行われ、個々の状態や希望に応じベッドや布団式での生活を支援している。	居室入り口の戸や扉に掲示された季節の飾りも定期的に見直す事で、入居者にとって楽みな部屋利用に繋がる事が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、昇降機の設置やひとりひとりのわかるちからをみきわめ、必要な目印を付け、物の配置に配慮している。		